

2019 年度 センター試験 数学ⅡB (本試験) 分析

全体概況

試験時間 60 分

大問数・解答数	大問数：2 題必答・2 題選択
難易度の変化（対昨年）	○ 難化 ○ やや難化 ● 変化なし ○ やや易化 ○ 易化
問題の分量（対昨年）	○ 増加 ● 変化なし ○ 減少
出題分野の変化	○ あり ● なし
出題形式の変化	○ あり ● なし
新傾向の問題	○ あり ● なし
<p>総評</p> <p>難易度・分量・出題分野について大きな変化は見られなかった。昨年は定義を問う問題、式の意味を問う問題など、やや目新しい問題が出題されたが、今年には出題されなかった。問題集などで見覚えのあるような典型的な問題が多く、昨年に引き続き誘導が丁寧で、計算量も抑えられているため、取り組みやすい問題と言える。目新しい問題がない分、昨年よりも解きやすい問題が多いが、数列で得点しにくい部分があるため、全体的な難易度としては昨年と同程度とした。</p>	

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	[1] 三角関数 [2] 指数・対数関数	30 点	[1] 「2 倍角の公式を用いて 1 次式に直し、合成する」という非常に典型的な問題である。さらに、誘導が丁寧であり、2017 年に合成が、2016 年に 2 倍角の公式が出題されていたことを考えると、対策をしていた受験生にとっては解きやすかったはずである。 [2] 指数・対数に関する連立方程式の問題。真数条件、底の変換、置き換えと、解くまでの流れが誘導されており、解きやすい問題である。文字の消去や変域など、受験生自身が考えるべき点も問題文に言及されているため、ミスが起りにくく得点しやすい問題である。
第 2 問	微分法と積分法	30 点	3 次関数と 2 次関数に関する、極値、グラフの接線、面積についての典型的な問題である。文字定数が多いため解きづらいように見えるが、誘導が丁寧なため、きちんと問題文を読めれば、答えを埋めることができるようになっている。(3) で式の意味を考えて因数分解する、(2) で面積の公式を用いる、などで計算量を減らすことが可能だが、普通に計算してもそれほど計算量ではない。
第 3 問	数列	20 点	等比数列、階差数列、漸化式に関する問題。前半は、初歩的な問題のため、確実に解きたい。(3) は、「漸化式を置き換えて解く」という過去にも出題されている頻出テーマであるが、やや複雑な置き換えのために、苦戦した受験生が多いのではないかと考えられる。
第 4 問	ベクトル	20 点	空間ベクトルに関する問題。本試では 2016 年度以来である。ベクトルを活用して、長さ、角度、面積、体積を求める典型的な問題。計算量も少なくなるように設定されており(計算せずに解答できる問いもある)、解きやすい問題である。
第 5 問	確率分布と統計的な推測	20 点	省略